

千葉県感染症発生動向調査情報

2011年 第16週 (4/18-4/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		16週	15週	14週	13週
小児科		16	17	17	15
眼科		4	4	4	4
インフルエンザ*		25	26	27	25
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点あたり患者数

定点	感染症名	千葉県					千葉県 4/11-4/17 15週
		注意報	4/18-4/24	4/11-4/17	4/4-4/10	3/28-4/3	
			16週	15週	14週	13週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	6
	咽頭結膜熱		3	5	1	1	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	48	42	22	20	314
	感染性胃腸炎		87	104	83	62	948
	水痘		18	17	24	17	180
	手足口病		2	1	2	1	3
	伝染性紅斑	↓	16	18	21	12	132
	突発性発しん		20	13	9	9	73
	百日咳		0	0	0	0	2
	ヘルパンギーナ		0	1	0	0	4
	流行性耳下腺炎		10	11	16	19	90
	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	115	93	91	120
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	0	1	0	14
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	1	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	0	0	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	放出インターフェロγ 試験	結核	女性	30歳代	放出インターフェロγ 試験
結核	男性	50歳代	病原体の検出等	結核	女性	30歳代	放出インターフェロγ 試験等
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出等	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	放出インターフェロγ 試験	—	—	—	—

*結核7件(94)、腸管出血性大腸菌感染症1件(2)、梅毒1件(1)の報告があった。

()内は2011年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第16週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.00となった。過去5年間の同時期と比べると最多。

＜伝染性紅斑＞前週より減少し、1.00となったが、過去5年間の同時期と比べると最多。

＜インフルエンザ＞前週よりやや増加し4.60となった。過去5年間の同時期と比べると多め。

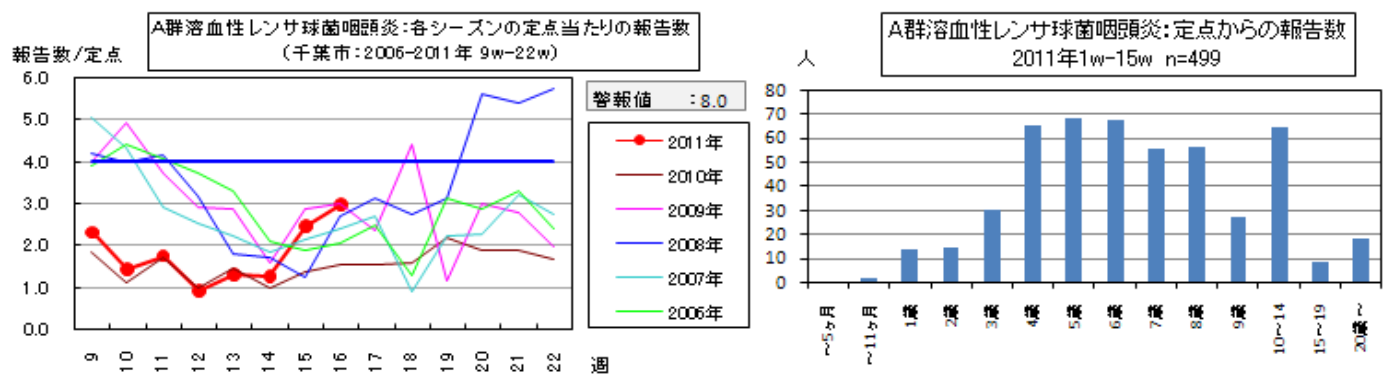
トピック

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

A群溶血性レンサ球菌は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよくみられるグラム陽性菌で、菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。日常よくみられる疾患として、急性咽頭炎の他、膿痂疹、蜂巣織炎などがあります。潜伏期は2～5日ですが、潜伏期での感染性については不明です。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。咽頭壁は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌(舌の表面が莓のように真っ赤になる)がみられることがあります。二次疾患としてリウマチ熱や急性糸球体腎炎などを起こすこともあります。学童期の小児に最も多く見られ、冬期及び春から初夏にかけて2つの流行のピークが出現します。

2011年第15週現在、全国的に過去4年間の同時期と比べると多めとなっており、石川県、宮崎県及び福井県で発生が多く報告されています。関東地方では、千葉県(2.38)、東京都(2.33)、群馬県(2.13)の順で多くなっています。千葉市では、第16週は前週より増加し3.00となり、過去5年間の同時期と比べると最多となりました。

予防にはうがいや手洗いの励行などの一般的予防法の外、患者との濃厚接触を避けることも大切です。



＜麻疹＞

4月22日、厚生労働省は東京都及び神奈川県において麻疹の増加が見られていることに対し、予防接種を受けるなど注意を呼びかけています。

WHOの情報によりますと、4月18日現在、ヨーロッパの33の国で、6,500例を超える麻疹の患者が報告されました。

千葉市では、2011年1月以降、麻疹の発生は2件となっており、例年に比べて少ない数ですが、都心に近いことや成田国際空港と都内を結ぶ中継点となっていることから、感染に注意してください。

中学1年生や高校3年生相当の方については、市の事業として麻疹・風しん混合ワクチンが無料で受けられます。麻疹ワクチンの接種を受けたことがなく麻疹に罹ったことのない方や、既に幼児の頃に各1回受けていただいている方でも免疫補強のために2回目として、この機会にワクチン接種を受けることをお勧めします。

また、2011年3月11日の震災発生以降、外国から多くの救援隊や医療関係者、報道関係者等が被災地へ駆けつけていますが、国立感染症情報センターの発表によりますと、外国人ジャーナリストが4月に日本国内で麻疹を発症し、都内や近隣の被災地で取材活動が続いていたことが判りました。

現在、被災地では平常と異なり栄養状態が十分でない方も少なくなく、麻疹が流行すれば重症者が通常よりも多く発生することも懸念されることから、同センターでは次の点について徹底するよう注意を呼び掛けています。

- ・ 支援業務やボランティアに携わる方々は、麻疹の罹患歴・接種歴が不明な場合にはワクチンを接種してから行くこと
 - ・ 体調が思わしくない場合には被災地へ行かないこと
 - ・ 被災地で体調が悪くなった場合には、活動を控えること
- (なお、麻疹に限らず、他の感染症に関しても同様に注意徹底をお願いします)

＜参考＞

● 国立感染症情報センター(麻疹について): <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

● 麻疹・風しん予防接種について(保健所感染症対策課):

<http://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kenkou/hokenjo/kansensho/masin-fusinyoboseshu-kaisei.html>